

二十年後の予測人口は八万二千五百人。いまより約二万人の増を見込んでいるわけですが、これにともなう市街化区域も拡大の方向で検討を進めなければなりません。

現在の市街化区域は七百七十九号ですが、人口推計

昭和55年	779ha
昭和60年	860ha
昭和65年	900ha
昭和75年	980ha

にあわせ、将来における市の市街化区域の規模は、次のように予測しています。

市街化区域拡大の方向で

昭和60年	67,800人
昭和65年	72,500人
昭和75年	82,500人

当市の人口目標を何人とするかは、きわめて難しい問題です。現在の人口は約六万三千人。二十年後にはいったどのくらいになるのでしょうか。

過去の人口の動きを見ると、昭和四十五年以前は比較的低調な伸びでしたが、昭和四十五年以降は増加の伸びが急速に高まりました。今後も新潟市のベッドタウン化とともに、生産年齢人口の流入、死亡率の低下などから、人口の増加が予想されます。

20年後は八万二五〇〇人

将来の新津のまちづくりを考える場合、まず前提になるのは、将来の人口規模をどのようにするか、ということですが、人口規模の違いによって、市の仕事も大きく変わってくるからです。そして人口と密接な関係にあるのが、土地利用をどうするかということです。

この構想では、将来の人口と土地利用を次のように予測しています。

都市基盤の整備

生活環境の整備、充実

駅前再開発を市民とともに

土地利用

- 農林地との調整を図りながら、区画整理事業などの手法導入を前提に市街化区域の拡大を検討します。
- 新津駅周辺の再開発は、駅前広場の拡大、駅舎改築及び駅東地区の連絡道路の設置とあわせて、市民とともに積極的に国鉄との調整を図り、実現に努めます。
- 能代現川の跡地利用については、市民との合意を得ながら関係機関との調整を図り、有効利用に努めます。
- 道路・交通網の整備
 - 新津・新津バイパス、三条・新津バイパス、東バイパスの建設促進とあわせ、新潟・新潟・三条バイパスの国道昇格による早期実現をめざします。
 - 東北横断自動車道、南バイパス建設計画の樹立促進に努めます。
 - バイパスの機能を有する広域的農道、林道などの早期建設を促進します。
- 建設を促進します。
 - 未改良幹線道路の改良舗装に努めるとともに、国への補助要請など積極的な推進を図ります。
 - 機械除雪体制の強化、消雪パイプによる無雪道路化の促進に努めます。
 - 新幹線開通に伴う在来線の輸送力強化や、バス交通による市内一円の環状運行の開発を、それぞれの輸送機関に協力して進めます。
- 秋葉公園の県移管を推進
 - 五十七年度暫定通水をめざして能代分流工事が進んでいますが、計画通水の早期実現のため積極的な推進を図ります。
 - 東大通川、朝日川など中小河川、国営排水路の改修とともに、国営排水路事業などについても関係機関に働きかけ、積極的に促進を図ります。
 - 老朽公営住宅の建替計画により住宅環境を整備します。

- 公園整備・緑化
 - 秋葉公園、遊歩道の整備を進めるとともに、将来、新潟地域広域公園として県移管を積極的に推進します。
 - 「緑のマスタープラン」によって緑化を推進します。
- 下水道
 - 現在計画中の第六次拡張事業は昭和六十五年完成し、一日最大給水量は四万五千立方メートルになります。また昭和七十五年推定人口八万二千五百人に対する供給体制については、新潟地域広域的水道整備計画との関連の中で計画していくこととしています。
 - 汚水処理については計画区域を九つの地区に、また雨水排除については十九の排水区にそれぞれ分け、第一期事業地区の中部地区は、五十六年度完成をめざします。
 - 第二期事業の西部・北上地区は六十一年度完成をめざすほか、その他の六地区は順次、積極的に整備を図ります。
 - なお第二期事業以降の汚水は、流域下水道処理場で処理されることとなります。
- 環境衛生
 - ネズミや昆虫などの発生源対策として、関係機関及び地域住民（特に空地所有者）の協力を得ながら根絶を期す（次のページへ続きます）

お買物、ご用命は市内で

ニイッ銘菓 雪かこい
駿河屋
ニイッ本町2 TEL(2)0543
祝儀・仏事菓子
銘菓・雪太郎・松坂羊かん
田家屋
ニイッ本町4 TEL(2)0430

花に託して心を贈る
あなたの街のあなたの花店
小林生花店 新津市新町1丁目
TEL (2)1080・(2)5707
慶弔用盛花、花束、ブーケ、会場装飾花
(各流派いけばな教室案内)

お買物、ご用命は市内で

駐車場完備
ほねつぎ
坂爪整骨院
新町1 ☎20062

カメラ8ミリは 3回〜20回払い
気軽なカメラクレジットを
ご利用下さい
(株)コダカメラ店
〒956 新津市本町二丁目 ☎(2)0583

20年後はどんなまち?

新「基本構想」の骨子がまとまりました

今から20年後、西暦2000年には、わたしたちの新津はどんなまちになっているのでしょうか。

テンポの速い現代では、10年先を見通すことさえ困難といわれていますが、この困難な、しかし夢のある作業が始まりました。昭和56年度から75年度まで、20年間のまちづくりの指針をつくる作業です。2年に1回行っている「市民意識調査」の結果など、市民のみなさんの声を反映しながら作業を進めています。

今回、ここにご紹介するのは、総合開発審議会に諮問した「基本構想の骨子」です。一つのたたき台にすぎませんが、基本的な方向としては、健康で安全な明るい快適な「文教住宅都市」づくりをめざしています。

紙面の都合で、主なものだけしかご紹介できませんが、将来のまちづくりを考えるうえでの参考としていただければ幸いです。

